

2025 春季生活闘争 闘争開始宣言 2.6 中央集会 芳野中央闘争委員長 主催者あいさつ

いよいよ、2025 春季生活闘争がはじまります。

今年も、闘争に懸ける強い思いを胸に、「闘争開始宣言 2.6 中央集会」へ、たくさんの仲間にお集まりいただきました。

私たちは、この間、「未来づくり春闘」を掲げ、全力で取り組んできました。私たちの運動が、社会を巻き込み、停滞していた賃金を動かし、日本経済のステージを転換させました。これまで社会を覆ってきた「給料なんて上がらない」という後ろ向きの常識が、本当に変わる。いまはその瀬戸際です。私たち連合に寄せられる期待も、責任も、かつてないほどに大きいということを、改めて自覚しなければなりません。

去年は 33 年ぶりの高い賃上げ率を実現しましたが、全体の結果と中小組合の結果との差は、連合設立以来もっとも大きかったことも事実です。「賃上げは大企業のもの」「中小企業には無関係」「労働組合がない職場は蚊帳の外」。こうした声が、いたるところから聞こえてきます。これをみんなで変えていきましょう。

2025 闘争の最大のミッションは、賃上げの流れを定着させ、そのすそ野を中小企業、地方、そして労働組合のない職場にまで広げることです。要求しないことには、何もはじまりません。一つひとつの労働組合の高らかな“要求”こそが、このミッションをクリアするための原動力となります。

連合は、全体では 5 % 以上、中小組合は 18,000 円・6 % 以上の賃上げ目標を掲げました。より高い水準をめざすことのできる環境が整っている労働組合は、積極的に高い水準で要求してください。中小組合に対しては、構成組織や地方連合会による力強い支援をお願いします。

賃上げがあたりまえの社会。これを実現するには、適切な価格転嫁・適正取引を、ますます社会へ浸透させる必要があります。経営者のみならず、私たち消費者も、良い商品やサービスには相応の値が付くことを認め合わなければなりません。長年変わらなかった取引慣行、ノルムを打ち破る。そのために、全国各地で開催されている地方版政労使会議の場も最大限に活用いただきたいと思います。すべてのステークホルダーが課題を共有し、未来志向の議論をすることで、賃上げに向けた機運を醸成していきましょう。

(裏面へ)

地域経済を支える中小・地場の取り組みは非常に重要です。昨年、震災と豪雨に見舞われた能登半島は、いまだその復旧・復興は道半ばです。今日は連合石川とも中継を繋いで、自然災害に負けずに、力強く賃上げに向けて交渉する、その決意の一端を述べていただきます。引き続き、連合全体で被災地に寄り添い、復旧・復興を全力で支援してまいります。

加えて、雇用形態間、男女間の賃金格差の背景にあるジェンダー平等の推進も重要です。誰もが自分らしく能力を発揮できるよう、長時間労働を前提とした働き方の見直しをすすめましょう。また、男女がともに家庭とキャリアの両立、調和をはかることができるよう、それぞれの職場で点検・改善していきましょう。

最後に、賃上げの流れをこれまで以上に推し拡げるためには、仲間づくりが不可欠です。労働組合の有無によって賃上げ率に約1ポイントの差があります。労働組合だからこそ、同じ職場で働く仲間の声をもとに要求書を提出し、経営者と対等な交渉ができるのです。この強みを、この集会の前段で行った有楽町での街頭アピール行動でも、訴えてまいりました。労働組合づくりに特化した宣伝ブースを設置したところ、足を止めてくださる方もみられました。労働組合への期待が高まっています。

いまこそ、「ウチだって給料が上がった」「暮らしがよくなった」「労働組合をつくってみよう」、いたるところから、そんな声があがる「みんなの春闘」をつくりあげていきましょう。

「みんなでつくろう！賃上げがあたりまえの社会」
「みんなでつくろう！働く仲間の労働組合」

“はたらくのそばで、ともに歩む”。この決意を胸に、連合一丸となって頑張りましょう！ありがとうございました。

以 上